



## 雇用における男女間格差解消を！

### 男女平等推進委員会と女性委員会が青森労働局に合同要請

政府が『第5次男女共同参画基本計画～すべての女性が輝く令和の社会へ～』を閣議決定して1年半が経つ6月20日(月)、連合青森男女平等推進委員会(高橋博幸委員長)と女性委員会(横山裕子委員長)は、青森労働局に対し、職場における男女間の格差是正を求め、「雇用における男女平等」に関する要請を行った。

この日の要請には男女平等推進委員会高橋委員長と女性委員会上野真菜副委員長等が出席し、青森労働局雇用環境・均等室八木橋晃室長に要請書を手渡した。

要請内容は①雇用創出と生活困窮者への人道支援、②失業等女性の雇用に関する問題の適切な把握と可視化、③仕事と育児・介護、不妊治療等が両立できる就業環境の整備、④ハラスメント対策、女性活躍推進の4分野14項目。具体的には、コロナ禍により大きな影響を受けた非正規雇用で働く女性やDV等により困窮した女性、就活中の学生への支援体制と助成の強化と実態把握、不妊治療を受ける労働者への配慮措置の周知やSOGIハラ等、各種ハラスメント根絶へむけた取り組みの推進等。



八木橋室長に要請書を手渡す  
高橋委員長(左)と上野副委員長(右)

要請書を手渡した高橋委員長は「コロナ禍により女性の家事育児・労働時間の長さやその背景にある固定的性別役割分担意識などの深刻さが浮き彫りとなった。また女性労働者の半数が非正規雇用で正社員においても賃金は男性の7割程度にとどまっている。現役時代の低賃金や不安定雇用が将来の貧困に繋がる可能性もあり、今こそ社会全体で取り組むべき課題。困っている方へのきめ細やかな対策・支援をお願いする」と強調した。

要請書を受けとった八木橋室長は「共通の認識を持っている。男女平等参画社会の実現に向け様々な支援制度や相談窓口等を周知するとともに、関係機関と連携しながら対策を継続する」と回答した。

連合青森2022春季生活闘争妥結状況						2022年6月20日現在			
	対象組合・員数	要求提出		加重平均		妥結状況		加重平均	
		組合数	率	金額	率	組合数	率	金額	率
連合青森	187組合 21,226名	111組合	59.36%	7,520円	3.51%	97組合	87.38%	4,917円	2.36%
地場労組	117組合 11,057名	63組合	50.40%	8,454円	4.37%	52組合	82.53%	5,147円	2.48%
		要求金額(単純平均)		要求率(単純平均)		妥結金額(単純平均)		妥結率(単純平均)	
非正規 ※時間額		29組合	36.8円	3.75%		28組合	32.8円	3.25%	

## 2022平和行動 in 沖縄

### 語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で恒久平和の実現を

連合は6月から9月までを「全国平和運動強化期間」と定め、平和4行動をはじめとする様々な運動を行い、戦争による惨禍が再び起こることが無いよう、恒久の平和を希求するとともに戦没者の霊を慰めるために取り組んでいる。

今年の平和行動の皮きりとして2022平和行動in

沖縄が6月23日（木）～24日（金）の日程で開催され、今回は新型コロナウイルス感染症対策により、参加人数を会場定員の半分に制限し開催した。全国から連合組合員など742名もが参加し、連合青森からは棟方一晴副会長（交通労連）、高橋博幸副会長（情報労連）が派遣された。

#### 『連合2022平和行動in沖縄に参加して』

2022平和行動in沖縄に連合青森から高橋博幸副会長と2名で参加しました。

初日の6月23日、「2022平和オキナワ集会」。第1部基調講演では明田川融・法政大学法学部政治学科教授より「沖縄の施政権返還50年と日米地位協定」をテーマに基調講演をいただき、第2部の平和式典では『1974年6月23日に制定された沖縄県の条例により、戦争による惨禍が再び起こることのないよう、人類普遍の願いである永久平和を希求するとともに、戦没者の霊を慰めるため、「慰霊の日」と定められました。連合は毎年、沖縄～広島～長崎～根室で平和行動を展開しています。この地域はいずれも第二次世界大戦で多大な被害を被り、現在でも大きな課題を抱えています。その地を訪れ、平和とは・戦争とは何かを知り、未来に向けて何ができるかを考え、行動す

る機会とします』とメッセージが述べられ、平和行動の開催意味を学習しました。



平和オキナワ集会

2日目の24日、「ピースフィールドワーク」戦跡Bコースに参加。行程は、嘉数高台（普天間基地）～旧海軍司令部壕～ひめゆりの塔／資料館～平和記念公園／資料館～魂魄之塔。戦時中の様子の写真などは、まともに見られないものが多数あり、実在の跡地などを見て、毎日ニュースで見ている現在のウクライナのような光景だったのかと思いました。

貴重な経験・体験をありがとうございました。

連合青森副会長 棟方一晴

#### 『連合2022平和行動in沖縄に参加して』

アジア隣国を侵略し続けた日本が、初めて日本国内での地上戦に追い込まれた沖縄戦は、住民をまきこんだ唯一の地上戦であり、自国の日本軍によって、多くの住民がスパイ容疑で殺害され、各地では住民の「集団自決」が発生した。また、米潜水艦によって撃沈された疎開船「対馬丸」は、約1600人が暗闇の海に呑みこまれ、今も海の底に船体と犠牲者の遺体は眠ったままである。

6月23日は、1974年に制定された沖縄県の条例により、戦争による惨禍が再び起こることのないよう、人類普遍の願いである恒久平和を希求するとともに、戦没者の霊を慰めるため、「慰霊の日」と定められている。

今回「2022平和行動in沖縄」において「平和オキナワ集会」や「ピースフィールドワーク」などへ参加してきた。初日の「平和オキナワ集会」

では、「沖縄の施政権返還50年と日米地位協定」の基調講演が行なわれ、沖縄の日本復帰から50年経った今も米軍に様々な特権を認め、沖縄の日常の暮らしに影を落としていることや、重い基地負担の大きな要因の一つとなっている地位協定の在り方について、改めて考えさせられた。

2日目の「ピースフィールドワーク」では、嘉数高台（普天間基地）→旧海軍司令部壕→ひめゆりの塔／資料館→平和記念公園／資料館→魂魄の塔（こんぱくのとう）を視察した。ひめゆりの塔資



嘉数高台



ひめゆりの塔

料館では、沖縄戦で亡くなった「ひめゆり学徒」227名の遺影や遺品、生存者の証言映像や手記が展示されており、改めて戦争の悲惨さや平和の尊さを考えさせられ胸が痛んだ。

ウクライナにロシアが侵攻し、日本でも自衛力増強の論議がでているが、戦争に備えることが大

事なのではなく、戦争にならないようにすることこそが大事なのではないか。

結びに今回参加の機会をいただいた連合青森の皆さんに感謝し報告するとともに、今後、平和学習会等を企画・実践し、後世に伝えていきたい。

連合青森副会長 高橋 博幸

## 優しいコミュニケーションと運動でストレス社会を！

### 2022連合青森女性委員会「学習会」

連合青森女性委員会(横山裕子委員長)は6月11日(土)9時30分から青森市の県労働福祉会館にて「2022連合青森女性委員会学習会」を開催し、参集・オンライン含め26名が参加した。

横山委員長は「政府は先月、301人以上雇用する企業に対し男女の賃金差の交渉を義務づける方針を固めた。この方針が女性の処遇改善を進める大きな一歩となることを期待する」とあいさつした。

次に来賓として招いた7月10日執行予定の第26回参議院選挙・青森県選挙区において連合青森が推薦する田名部まさよ参議院議員があいさつに立った。田名部議員は「実質賃金が上がらず子育てや介護をしながらも働かなくては生活できない今、旗だけが躍る女性活躍ではなく女性が安心して働き、そして自分らしく生きられるような選択できる社会を皆と共につくっていききたい」と述べた。

学習会に入り第1部「職場コミュニケーションについて学ぼう」と題し産業心理カウンセラー岡部あゆみ氏から講演いただき、伝え方、聴き方のコツを学んだ。岡部カウンセラーは「現代人の悩みの上位は人間関係。同じ言葉でも人によって捉え方が異なり、わかり合えると思っていると痛い思いをすることがある。そんな時は違う人なのだからと気楽に捉え、妥協点をさがすことがストレスなく生きるコツ」と語った。



ストレスなく生きるコツを語る岡部氏



松山講師をお手本に太極拳を体験

続いて第2部「コロナ禍の運動不足を解決しよう」と題し、(社)日本武術太極拳連盟公認A級指導員である松山貴子を講師に迎え太極拳を体験した。体幹が鍛えられるとする太極拳。ゆったりとした動きの中に様々な動作が組み込まれていることに、手足が着いていかないと苦戦。笑いが聞こえる中、汗をかき心も体もリフレッシュした。

#### 2022年7月行動予定 7月10日現在

- 7月13日(水)10時30分 県労働福祉会館 「第3回政策委員会」
- 7月13日(水)13時30分 県労働福祉会館 「第5回四役会議」
- 7月13日(水)上記終了後 県労働福祉会館 「第5回戦術会議」
- 7月13日(水)上記終了後 県労働福祉会館 「第4回政治センター幹事会」
- 7月13日(水)17時45分 県労働福祉会館 「第1回食みみ実行委員会」
- 7月15日(金)16時 青森市浅虫 「第3回地場労対策委員会」
- 7月16日(土)9時00分 県労働福祉会館 「青年委員会イベント担当者会議」
- 7月16日(土)13時00分 青森市内 「7.28平和の集い・平和学習バスツアー」
- 7月20日(水)10時30分 県労働福祉会館 「第4回地場労対策委員会」
- 7月20日(水)13時30分 県労働福祉会館 「第6回執行委員会」
- 7月20日(水)上記終了後 県労働福祉会館 「第5回闘争委員会」

## 災害用非常食206食を青森県母子寡婦福祉連合会へ贈呈

『大規模災害備蓄品運動』『フードバンク運動』

東日本大震災から10年が経過した2021年、またいつ起こり得るかわからない大規模災害に備え、連合青森は非常食の備蓄を各組織や組合員に呼びかけ『大規模災害備蓄品運動』を展開した。また、この運動によって備蓄の役割を終えた災害用非常食については食品ロス削減や生活困窮者支援を目的に『フードバンク運動』により有効活用を図ることとしている。

今回は数組織からカップ麺やレトルトカレー、サバ缶など206食が寄せられ、6月29日（水）、ひとり親世帯の支援をしている（公財）青森県母子寡婦福祉連合会（秋田谷洋子会長）へ寄贈することとなった。

連合青森大澤祥宏事務局長より非常食を受け取った秋田谷会長は「コロナ禍において子育て環境や労働条件が一層厳しさを増す中、物心両面から応援をいただき、ありがたく心強く思う。このご好意を伝え感謝をもってひとり親世帯へ届けて



青森県母子寡婦福祉連合会への贈呈式



備蓄の役割を終えた災害用非常食

いく。必ずや会員の励みとなる」と感謝を述べた。

この食料品は市町村組織などを通じ、ひとり親世帯に届けられる。

## 労使双方の「ワークルール」に関する知識を高め、労働問題の是正・解決に！

ワークルール検定2022・春（初級）

連合やNPO法人職場の権利教育ネットワークなど全6団体で構成される（社）日本ワークルール検定協会は、「ワークルール検定2022・春」を6月12日（日）、初級24会場、中級8会場で一斉に開催した。青森県においては青森市の労働福祉会館で「初級検定」を開催し、45名が受検した。

近年「ハラスメント」などの労働相談の増加や、「ブラック企業」の社会問題化など、使用者側と労働者側双方の「ワークルール」に関する知識の欠如に起因した労働問題が顕著化している。また学校教育でも実践的な教育はされず、社会に出てから困難に巻き込まれるケースも増加傾向にある。このような労働をめぐる問題を是正・解決するためには労使双方の「ワークルール」に関する知識・認識を高めていく必要があることから、本



真剣に取り組む受検者の皆さん

検定は2013年から「ワークルール」の社会的普及と健全な労働環境の実現を図ることを目的に実施され、県内においては5回目の開催となる。

初級検定は20問中14問正解で合格となり、次のステップ「中級検定」の受検が可能となる。合格発表は7月4日に協会の公式ホームページに掲載された。